

血液製剤発注システムと輸血システム導入後の業務改善について

◎縄田 勇貴¹⁾、畑田 祐也¹⁾、新田 誠¹⁾
福岡県済生会 二日市病院¹⁾

【はじめに】当院は、例年福岡県の1病床当たりの赤血球製剤使用実績において、大学病院とほぼ同等で同規模病院でも上位に入る施設である。また、検体検査室は少人数で多種多様な検査に対応している状況である。そこで医療安全、業務改善を目的として輸血システム（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社 輸血システム BTD[®]X2）（以下 BTD）を導入した。これまで、血液製剤の発注は FAX を用いて行われていたが、全国で日本赤十字社血液製剤発注システム（以下 web 発注システム）が導入され、当院では web 発注システムと同時に BTD を導入した。その後の業務について検証を行ったので報告する。

【変更点】導入前と導入後で7つの変更点があった。①入庫や製剤管理を行う手書きの台帳や伝票への記入が不要となった。②台帳に記入していた出庫後の廃棄と返品処理、副反応の入力を BTD で行った。③検査結果の2重チェック（オーソビジョン[®]-全自動輸血検査装置と BTD）を行った。④入庫時に製剤の血液型確認（RBC と自己血のみ）とセグメントチューブの保存、および赤血球抗原情報を web 発注

システムにて検索可能となった。⑤輸血前後の感染症を調べる血清保存はシステム管理で行い、保管情報を登録した。⑥同意書は電子カルテにスキャンされていることを確認し、BTD に登録した。⑦検体の血液型確認を試験管法からオーソビジョン[®]-全自動輸血検査装置に変更し、不規則抗体スクリーニング検査（以下 SCR という）と同時に検査可能となった。また、追加輸血の場合は交差試験なしですぐに出庫可能となった（SCR 実施日から2日以内）

【結果】メリットは次の3点が挙げられた。①ペーパーレス化。②検索の簡略化。③検査結果報告の迅速化。なお機器システムのダウン対策で各種帳票の印刷を実施することとした。

【結語】以上の結果より、期待していた医療安全、業務改善の目的は達成したと考える。今後は、web 発注システムと BTD を円滑に使用し、定期的に改善を行い、より正確で迅速に検査結果を報告していきたいと考える。

恩賜財団 社会福祉法人 済生会二日市病院
検査部 縄田 勇貴 092-923-1551 内線 (2223)